

目次

□巻頭言 建設機械の進む方向……………山本房生/1

□昭和47年度官公庁の事業概要

運輸省港湾関係事業の概要……………中田弘/3

運輸省空港整備関係事業の概要……………安田善守/9

京浜外貿埠頭公団の事業概要……………御代田敬一/13

阪神外貿埠頭公団の事業概要……………横山顕二/18

新東京国際空港公団の事業概要……………真鍋重遠/22

日本国有鉄道の事業概要……………立石巍/26

農林省農地局の事業概要……………山本純/30

農地開発機械公団の事業概要……………鈴木益夫/35

科学技術庁の事業概要……………細野武庸/38

グラビヤ—開港間近い新東京国際空港

香港クワイチェン
コンテナターミナル建設工事の概要……………田中悦次/41

新大村空港の建設計画……………西之園直聰/46

無人潜函掘削機の試験施工報告……………西森田徹嗣/55

大口径ウェル掘削機の性能試験報告……………山本忠良三/63

強力締固め形アスファルトフィニッシャの
性能試験報告……………桑垣悦夫/72

□随想 路面雪の調査のことなど……………木下誠一/80

改正車両制限令の解説……………横沢伯達/82

□部会研究報告

地下連続壁工法に関するアンケート調査……………施工技術部会/89
場所打杭委員会

□建設機械化講座 第106回 現場フォアマンのための土木と施工法

XVII. 建設機械概説

3. ショベル系建設機械(その1)……………田中成一/96

□研究所巡り

京都大学防災研究所……………今中靖雄/102
若木三守

大林組技術研究所……………峯本行雄/105
峯布

□建設機械化研究所抄報

試験研究報告 (No. 85)……………建設機械化研究所/107

□文献調査

リール式パイプ敷設バージ……………広報部会/112
文献調査委員会

ニューズ……………(編集部)/114

行事一覽……………/115

編集後記……………(中野・両角)/116

◀表紙写真説明▶

無人潜函掘削装置

三菱重工業株式会社

この装置は、在来の圧気潜函工法の作業室内の掘削および排土を機械化し、すべての作業を潜函作業室外の現場操作室から、函内の作業は備え付けた3基の撮影機より操作室で受像し、函内の作業を確認しながら全自動または必要により手動により掘削、潜函の沈下を行なうものである。掘削には180°の位置に2基のバックホウタイプの掘削機が装置されて掘削を行なうが、掘削位置を変更するための回転も可能である。また、潜函の不等沈下にそなえ、その修正のため掘削機1台の稼働も可能である。

<施工可能範囲>

潜函の太さ：径9~6m 円内に納る角形可能
最高潜函沈下深さ：50m 水面から
最高封水圧：5kg/cm²

<掘削装置>

バケット容量：0.2m³×2
掘削サイクルタイム：40sec 以下
排土バケット：0.3m³